32. 栃木県加蘇鉾山産マンガンジュウ石

Hübnerite from Kaso Mine, Tochigi Prefecture

加 藤 昭 (Akira Kato)

昭和 32 年 6 月, 日本鉱物学会の巡検で栃木県鹿沼市上久我の加蘇鉾山へ赴いた際, 坑外の貯鉱場で主としてロードン石¹⁾からなる鉾石中からマンガンジュウ石を採集した。この鉾物は 2×2 mm ほどの板状の結晶で, ほぼ正方形の輪廓を有するが, 結晶面は測定することができなかった。暗赤褐色で細片では明らかに光を透し, かつ一方向に完全なへき開が認められる。板状の面にはへき開に平行な条線がいちじるしい。

同定にはノレルコを用い, これを D. E. Lee によって記載された山口県玖珂郡蓮華鉾山産²⁾のものと対比し, よい一致をみた (第 5 表)。

第 5 表 マンガンジュウ石の X 線粉末廻折線

A 加 蘇 産		B 蓮 華 産	
<i>d</i>	<i>I</i>	<i>d</i>	<i>I</i>
5.78*Å	s	5.76Å	15
4.85	s	4.82	80
3.79	s	3.77	70
3.72	s	3.69	60
3.00	s	3.00	100
2.96	vs	2.95	100
2.89*	vs	2.87	25
2.50	m.	2.49	50
		2.41	10
		2.24	10
2.21	w	2.20	15
		2.05	5

1) Rhodonite の和名にバラキ石を用いることは従来バラキ石といわれている鉾石のかなり多くのものがパイロクスマンガン石に属する事実にかんがみて, 訂正したく, 改めてロードン石の和名を提唱したい。(桜井幹一)

2) D. E. Lee; Stanford Univ. Publication, Vol. V. (1955).

* preferred orientation のため強度が大きいと考えられる。

1.922	w	1.92	5
		1.88	5
1.858	w	1.85	5
1.785	m	1.78	15
		1.75	15
1.725	w	1.72	15

Fe $K\alpha$, no filter, 4-1-4, 1-0.006-1, 30 kV, 8 mA, Acetone 使用。

従来わが国におけるマンガングジュウ石の産出は主として含金銀銅石英鉱脈中に限られ、古くは栃木県塩谷郡西沢鉱山をはじめ兵庫県朝来郡生野鉱山金香瀬、北海道上川郡美瑛町国光鉱山、岩手県遠野市附馬牛（ツケモウシ）町安居合（アオダイ）³⁾ 等から報告されているが、カコウ岩の接触帯にあるマンガング山からの産出については、前述の Lee の記載による山口県蓮華鉱山²⁾ および加蘇鉱山があり、その後地質調査所の広渡文利によって栃木県萩平鉱山から見出されている⁴⁾。今後の調査研究によりさらに産地は増加するものと思われる。

なおカコウ岩の接触帯にあるマンガング床中のマンガングジュウ石は、成因的にはセツカイ岩の接触帯におけるカイジュウ石と全く同様で、

として考えることができる。

終りに巡検当日坑内外を案内され、かつマンガングジュウ石について種々御教示賜った渡辺武男教授、桜井欽一博士、ならびに X 線粉末廻折値について御教え頂いた地質調査所の佐々木昭氏に厚く御礼申上げる。

3) 日本鉱物誌第 4 版原稿による。

4) 未発表。